



今月は
永尾のむかし話

後世に残そう。
地域に伝わる
おとぎ話の世界。

永尾伝説

永尾神社から北に続く鎌戸山はエイの形をしており、大昔、海の神様の海童神が大きなエイの背中に乗って現れ、宇土半島を乗り越えようとして、そのまま鎮座したといわれています。山向こうの宇土市網津にある網引という地名はこのエイを捕えようと網を引いたことから名付けられたといえます。

永尾神社の所在地はちょうどエイの尾剣の部分にあたることから別名「剣神社」ともいい、この地名も永尾となったといわれています。

イラスト／村上 明日香
(不知火美術館 学芸員)



まずは操作方法を学んで



スマホで実践



新鮮情報を随時アップ



道の駅 不知火ホームページ



今月は私がお届け

地域おこし協力隊
宮川 瑞代 さん

見た！聞いた！
地域の魅力再発見！

道の駅不知火を運営する不知火温泉(有)の従業員の皆さんに Google マップへの投稿方法を伝授しました。これから1人1人が広報マンとしてPRしてください。

スマートフォンからいつでも最新の情報が投稿できるようになり、店長の松田祐一郎さんは「商品をどんどん発信していきたい」と話してくれました。

広報特派員や
地域おこし協力隊が
市内で起きた出来事を
伝えます。

あの人のこの一言

は人生の処方箋。毎朝5時くらいからの花の手入れが自分を整えてくれます。台風10号で避難した時は涙ながらに2時間ぐらい花に声を掛けて回りました。避難した先は世話人として勤める「宇城きぼうの家一番館」。誇りを持って働いています。帰宅したら花たちが「頑張ったでしょ！」って胸を張っていましたよ。

今は10月24・25日の「うと歌謡祭」に向け不知火のサン・テラスの美鈴会長からカラオケの特訓中です。曲は娘が選んでくれた「女の漁歌」。大好きな「ありがとうございます」の言葉を胸に日々暮らしています。



古賀 起美さん
74歳 松橋町

市民の何でもランキング

あなたに最も身近な人が選ぶランキングを発表。何かを決めるときの参考にしてみませんか。

今回のテーマ
自慢の特産品は何？

- 1位 🏆 229票 不知火(デコポン)
- 2位 46票 ショウガ
- 3位 42票 ブドウ

市民
492人の回答

PICK UP!



堺屋 知子 さん

レンコン

家族で好みの歯触りが違うので、母は調理が大変だったんじゃないかなあ。

次回のテーマは **回答期限: 10/15(木)**
「好きな本のジャンルは何？」
回答は市公式LINEやメール、お便りで。皆さんの回答お待ちしております。



市公式 LINE

人の心に残る鬼を

かつては邪気を払う守り神として飾られていた鬼瓦。これを作る職人は鬼師と呼ばれ、全国に150人ほど。そのうちの2人が藤本さん親子です。
「思い出深いのは、平成28年熊本地震で壊れた熊本城の鯨の復元。2度と倒れないように下部から徐々に乾燥させ、1:2

mの鯨を作り上げました。シミュレーション通りにいきましたね。」と笑顔を見せる康祐さん。ただ、プレッシャーはいつでも感じているそう。「目立つものほど破損した時には手のひら返して非難を浴びます。技術力・精神力を常に磨いておかなければなりません。」
畏敬の念と共に心に残る存在を作り続けていくために。



藤本康祐さん 修悟さん
藤本鬼瓦
小川町河江292
☎43-2062

てくてくとさらぽ。
手しごとさらぽ。

ものづくりをする手から生まれる作品は暮らしを心豊かに彩る。そんな命を吹き込む手仕事を紹介します。